

温かみある県産スギに包まれて 「最適な住み心地」に妥協しない家づくり



尾前設計 代表
おまえ かずひ で
尾前 一日出 さん

椎葉村出身。県内各地の個人住宅や公共施設などを設計するかわら、同村下福良の十根川地区の民家の復元作業にも力を入れている



今年5月に完成したばかりの永倉さん宅（宮崎市学園木花台）も、そんなこだわりに満ちています。

「一生暮らすものだから、お客さんの理想をできる限り実現させたい」。そう話すのは、椎葉村に建築士事務所をおく尾前設計 代表の尾前一日出さん。



永倉邸(宮崎市学園木花台)

施工業者を何軒も回って探した「理想の家」



子どもたちの成長を機に4年ほど前からマイホームの検討を始めた永倉さんご一家。「主人の泰治さんは「古民家風でやすらぎを感じる家」を、奥さまの洋子さんは「レンガを使ったヨーロッパ風の家もいいな」。家族で意見を交わし合い、いろいろな施工業者を回っていました。そんな時、県が推奨する『大きな「みやざきスギ」住宅たつぷり体感事業』認定企業の尾前さんと出会います。話を聞くうちに「尾前さんの勧める木造住宅なら、子どもたちの健康や環境にもやさしい」と、お願いすることを決めました。

材料の一つ一つを相談しながら納得して建てる

尾前さんは建物の構造から材料に至るまでいくつもの候補を用意し、お客さんと相談しながら家造りを進めます。「窓枠一つとっても、いろいろなメーカーのさまざまな種類がある。その性質を丁寧に説明し、お客さんのこだわりや予算が合致する最良のものを選ぶので、細かい部分まで十分納得してもらい着工できる」。このように尾前さんは平均1年から2年、お客さんとの打ち合わせに時間をかけます。「何から何までじっくり話し合いました。大変だった分、家への思い入れが強くなりました」と洋子さん。

古民家風の太い梁(はり) 県産スギの木肌によすらぐ

泰治さんの「古民家」へのあこがれを叶えようと、尾前さんはリビングの吹き抜け天井の中央に太い「梁(はり)」を通しました。組んだ材木が見え、安定感がありながら開放的な造りに

お客さんと一緒に作りあげる「理想の家」



①開放感あふれるリビング。安らぎを生む「古民家」風の太い梁(はり) ②県産スギを生かした扉や家具。手作りの勉強机は世界でたった一つのオリジナル ③吸湿性などにも優れた珪藻土の壁 ④玄関は両開きで、出入りのしやすい造りに ⑤外装は平屋、中に入ると2階への階段が。天井の高い開放的な空間が生み出したユニークな構造

「体育館のような広いリビングがほしかった」という洋子さんも満足。見え隠れ部分にもふんだんに県産スギを使い、木のすがすがしい香りに包まれます。「防虫効果、防湿性、耐久性がある県産スギは建材に最適」とのこと。また1階の壁の大部分に日本古来の壁材「珪藻土」を使用。高い保温性と吸湿性が、過ごしやすい室内を作ります。

次々と生まれるアイデア 「住みやすさ」とことん追求

建物がほぼ完成してからも、尾前さんの「住みやすさ」への追求はとどまるどころを知りません。子ども部屋に勉強机を、テレビの大きさと部屋の隅の角度に合わせたテレビ台を

と、県産スギを生かした家具を作り取りつけます。世界に一つしかないオリジナルの勉強机に、永倉さんの子どもたちも「すごい！」と大喜び。「家の中を見て回りながら次々に生まれるアイデアを形にしてくれる。とてもありがたいです」と泰治さん。

「100年先も愛着を持ってもらえる家」を造る

「目指すのは、この先10年先も100年先も、愛着を持って住んでいただける家です」。大切に住んでほしいから、お客さんがとことん納得する形を追い求める尾前さん。泰治さんも「年月がたつて、家が風合いを変えていくのが楽しみです」と笑顔を見せてくれました。

みやざきスギでの「家づくり」完成見学会

模型・パース展示会も同時開催 (過去実績分)

6.16日・17日
10:00~17:00
会場電話:090-9603-0641

●健康に良いスギの空間 ●木の「やすらぎ」や「ぬくもり」 ●環境にやさしい建築素材



大きな「みやざきスギ」活用の家



●みやざきスギでの「家づくり」
尾前設計では、構造材、羽柄材、内装材、建具などに「みやざきスギ」をふんだんに使用し、木の本来の良さを活かしたデザインで設計いたします。

尾前設計

代表 尾前 一日出
〒883-1601 宮崎県東臼杵郡椎葉村大字下福良106-36
TEL0982-68-7810・FAX0982-68-7815
E-mail: omaekaze@sea.plala.or.jp http://www.omae-archi.jp/
日向事務所 日向市大字日知屋字前田8097-6
TEL0982-57-3744